力をしていきたいという趣旨でございます。 合いをして、いい結果が出ますようにこちらも努 を持ってやってまいりますので、お会いしてお話 か御理解いただけるように、こちらとしても誠意 会いすれば良い結果が出るのではないかと。何と 上げた上で、そういった状況に至ったならば、お うことではお会いしても意味がありませんと申し と思うのですけれども、より対立が深くなるとい 踏まえてお考えをいただきたいなという気持ちで 縄県のことや日本の国の安全保障、そういう点を ということしか言われておりません。もう少し沖 ございまして、お会いして良い結果が出ればいい

を行いつつ、こういった状況において御理解をい いった中で沖縄県の皆様方と様々なレベルで対話 ただきたいという趣旨でございます。 したがいまして、私といたしましても、こう

いずれも真摯に受け止めたいと思います。 て御指摘ありました。この選挙結果については、 〇国務大臣(岸田文雄君) まず、選挙結果につい

法令に基づいて粛々と進めていきたいと考えてい とともに、普天間飛行場の返還が実現するよう、 立場にあるわけです。是非、負担軽減に取り組む 古への移設が唯一の解決策であるという一貫した 思っています。そして、政府としましては、辺野 政府と沖縄県民の皆様方との共通認識であると 化、これは絶対に避けなければならない。これは その上で申し上げますが、普天間飛行場の固定

力をしていきたいと考えます。 と政府の関係者の意思疎通、理解が進むように努 のことだと思います。是非、地元関係者の皆様方 ていく中で対話の機会が設けられる、これは当然 今後、国と地元が様々な取組について連携を深め そして、知事さんとの面会の話でありますが、

〇糸数慶子君 次に、普天間飛行場の辺野古移設 員会を設置いたしました。同手続の検証を開始を 業に係る公有水面埋立承認手続に関する第三者委 拒否との民意を受けて就任した翁長知事は、今年 一月二十六日に、普天間飛行場代替施設建設事

外交防衛委員会会議録第四号

平成二十七年三月二十六日

参議院

行し、仮設桟橋の設置工事の準備などを行いまし は、こうした申入れを考慮することなく作業を続 ど、作業の中断を求めています。しかし、政府 るまで代替施設建設に関する調査を見合わせるな 衛局に対して、第三者委員会の検証作業が終了す しております。 また、 同日、 翁長知事は、沖縄防

明確に把握しているのでしょうか。防衛大臣にお 何いいたします。 ける検証作業や作業中断の申入れの意図について

ともに、資料や現状写真を求められたと承知をい 日、沖縄防衛局は沖縄県から、同局が行ったブイ 設事業に係る岩礁破砕等の許可に関し、二月十六 業に係る調査等を見合わせる等の配慮を求められ 訪れまして、第三者委員会の検証作業の間、同事 たしております。 のアンカー設置について必要な手続を実施すると たと承知をいたしております。また、代替施設建 般、沖縄県の安慶田副知事さんが沖縄の防衛局を 〇国務大臣(中谷元君) お尋ねの申入れは、先

意義をお話をしていただければと考えておりま とも、政府全体で連携し、様々なレベルで地元と まして、これが大前提であり、かつ地元と政府の 地の真ん中にある普天間飛行場の固定化、これは 間の共通の認識であると思っておりまして、今後 絶対に避けなければならないということでござい の対話を行いつつ、普天間移設の位置付け、また いずれにしましても、最も大事なことは、市街

を示した行動であって、その民意というのは無意 じということでございますが、それは沖縄の民意 副知事が対応していくというこの状況、今、御存 委員会をつくって、今おっしゃったように安慶田 基地を造らせないという、そしてそのために検証 いうことであれば、なぜあの作業を続行したので していらっしゃるということでありますが、そう しょうか。やはり、沖縄の民意は辺野古に新しい 〇糸数慶子君 第三者委員会の件に関しても把握

〇国務大臣(中谷元君) 工事の実施等につきまし ます。

政府は、こうした翁長知事の第三者委員会にお

すなわち、

番御縁の深い日として挙げるとしたならば、沖縄 御質問ですが、糸数委員のお立場を考えると、一 戦において米軍が上陸を開始した日だと承知をし 〇国務大臣(岸田文雄君) ております。

そういう沖縄戦が展開されて、その戦争を体験さ れた方が、実は今八十五歳になる島袋文子さんと が、昨日ですが、内閣総理大臣安倍晋三殿、いわ の沖縄の慶良間諸島、いわゆる日本での地上戦を いうおばあちゃんがいらっしゃいますが、その方 展開した日なんです。 の二十六日に、太平洋戦争で初めて米軍が、日本 たくさんの方が犠牲になっているわけですが、

味なものでしょうか。 防衛大臣の見解を再度求め

ますので、私たちといたしましては、工事の実施 りまして、工事の内容等につきましては何ら瑕疵 整を行いまして、許可をいただいたわけでござい いきたいと、そういう気持ちで実施をいたしてお がないというふうに考えております。 早く普天間基地の移設が実現できるように進めて 等につきましては瑕疵のないものである、一日も ては、様々な角度、見地におきまして沖縄県に調

を示しているわけです。 ましては、その立場から承認を撤回するとの認識 野古移設拒否との民意を受けて就任した知事とし 認を取り消し、そして法的瑕疵がない場合も、辺 を踏まえた上で、承認に法的瑕疵があれば埋立承 〇糸数慶子君 翁長知事は、第三者委員会の報告

す。これを踏まえ、政府は直ちに海上ボーリング 古移設中止、県外移設ということであるわけで 退をすることを求めます。 調査などの全ての作業を中止して、辺野古から撤 ところで、今日は何の日か御存じでしょうか。 繰り返しますが、沖縄の民意は辺野 今日は何の日かという

〇糸数慶子君 まさにその日は、七十年前の三月

がお預かりいたしまして、 ゆる安倍総理大臣宛てに手紙を出されました。私 内閣官房内閣総務官室

の佐野美博様にお渡しをしたんですけれども、 の手紙の内容をちょっと御紹介したいと思いま

そ

きたく、筆を執りました。 す。 います。安倍首相に是非私の意見を聞いていただ 新基地建設に反対して、非暴力で座込みを続けて 私は、沖縄県辺野古に住む島袋文子と申しま 私は、七十年前の地獄のような沖縄戦を生き抜 八十五歳です。私は、十八年間ずっと辺野古

る人権侵害です。私は非常に怒りを覚えていま も、そして名護市議選挙も衆議院選挙も、新基地 は、もう二度と戦争は嫌だというその強い気持ち いという審判が下りました。これほどまでに何回 建設ノーの候補者が全勝し、新しい基地は要らな も示した民意を無視して辺野古に新基地建設を強 行している安倍内閣のやり方は、私たちに対す を持っています。ですから、昨年の名護市長選挙 いわゆる泥水を飲んで生き長らえてきました。 い、今でも傷が残っています。死んだ人の血を、 た。十五歳の私は火炎放射器で全身大やけどを負 いてきた者です。父や兄たちは兵隊に取られ、 の不自由な母と十歳の弟と戦火を逃げ惑いまし 沖縄戦では四人に一人の命を失った沖縄の人々 目

が、なぜ翁長知事が面会を求めてもお会いになら か、県民に丁寧に説明してとか言っておられます ないのですか。 安倍首相は常々、沖縄県民の心に寄り添ってと

た。それに対して米軍人は、サッカーでのジェス を受けて転倒させられ、頭にけがを負わされまし よって推し進められています。私は機動隊に暴力 な島に戦後、在日米軍専用基地が七三・八%も集 六%にしかすぎません。小さな島です。その小さ す。私は、一つしかない命を懸けて座込み行動を 設が、海でも陸でも海上保安庁や機動隊の暴力に 中させられています。そして今、辺野古新基地建 チャーと同じ、ばかばかしいと言っている始末で しています。この命懸けの非暴力行動に対して、 沖縄は日本本土、そして全体の面積の僅か〇

何という失礼な言い方をされるのでしょうか。 のような米軍人の発言を許している日本政府も許

を置こうとはしないのですか。 るのでしょうか。沖縄にだけ犠牲をまた強いるの ですか。なぜ日本本土に普天間基地に代わる基地 安倍首相は、我が国を守るためと言っていらっ 本本土は生き延びられると考えているのですか。 沖縄だけこのように強制的に基地を集中させ、日 しゃいますが、その我が国の中に沖縄は入ってい 安倍首相、辺野古に来て現場を見てください。

地建設を推し進めるなら、沖縄にある全基地を撤 県民の意思など問答無用とばかりに辺野古に新基 沖縄の人間の命は奪われることになります。それ きたとしたならば沖縄はターゲットにされ、再び ら、沖縄に新基地が建設されれば、戦争がもし起 年前に日本軍がやったことと同じことです。安倍 を踏みにじってやろうとする新基地建設は、七十 現在辺野古で国が行おうとしている、地元の民意 首相は国民の命と財産を守るとおっしゃいなが 沖縄戦で日本軍は沖縄の人間を守らなかった。 七十年前の沖縄戦と同じように、沖縄 す。 5

しては別紙、また戦場体験をされた冊子を同封し 子さんが昨日私に託したお手紙で、安倍首相に対 とで、これは名護市の辺野古にお住まいの島袋文 んで安倍首相の意見をお聞かせくださいというこ てお渡しをしております。 最後に、私の戦争体験を同封します。これを読

感想をお伺いしたいと思います。 上げましたこのお手紙を読んで、両大臣に率直な するお返事をいただきたいのですが、今私が読み 〇国務大臣(中谷元君) 安倍首相に対しては、是非、島袋文子さんに対 お手紙、 拝聴させていた

有をいたしております。 私も受け止めます。そして、その気持ちは私も共 維持していかなければならない、そのお気持ち、 二度と戦争を起こしてはいけない、また平和を

(

だきました。

をし、民主主義も守られているわけでございま b でございまして、戦後七十年になりますけれど の国の領土、領海、領空及び国民の生命、財産、 これはしっかり守っていかなければならないわけ その一方で、 日本は平和で、そして経済的な豊かさを維持 防衛大臣といたしましては、 日本

方には変わりません。そして何よりも、移設に よって普天間飛行場は全面返還されることですか 的に勘案しますと、キャンプ・シュワブ、辺野古 は一刻も早く除去する必要がございまして、総合 の特性、その中でも普天間飛行場の危険性、これ して沖縄の地理的優位性、またアメリカの海兵隊 これを低下させることはできないということ、そ 沖縄の海兵隊を含む在日米軍全体のプレゼンス、 でございまして、最近我が国を取り巻く安全保障 保条約、これが日本の安全保障を守ってきた原則 に移設することが唯一の解決策であるという考え 環境、これは厳しさを増しておりまして、やはり 安全保障でいいますと、やはり自衛隊と日米安 沖縄の負担軽減に資するものと考えておりま

ら事業の推進を図ってまいりたいというふうに また、皆様方との意見も拝聴させていただきなが 思っております。 が、様々なレベルで地元の皆様方と対話を行いつ つ、こういったことについて御理解をいただき、 こういった考え方は政府の考え方でございます

に、胸の痛む思いがいたします。 島袋文子さんのお手紙を読んでいただきました。 本当に七十年前の大変な御苦労を思いますとき 〇国務大臣(岸田文雄君) ただいま委員の方から 私も出身が広島ですので、七十年前、全く別の

形で多くの親族、関係者が悲惨な思いをいたしま げられたのではないかと想像をいたします。改め りますから、それ以上に大変悲惨な光景が繰り広 場に思いを巡らし、 て、そのときの沖縄の皆様方の思い、置かれた立 した。沖縄においては地上戦が行われたわけであ 胸が痛む思いがいたします。

少しでも寄り添いながら、 私たちは、

全保障など、様々な観点からしっかり責任を果た

であれば、やはり島袋文子さんの思いは届かない 分かるけれども、でも基地は造らせるということ 本政府に届かないというのが残念でございますけ りしていらっしゃいますけど、その心が本当に日 届くような年齢ですが、力を振り絞って、二度と 徒、ひめゆりの先生方も資料館の前で本当に精魂 れども、今の両大臣のお言葉の中から、気持ちは 込めて、御自身のお体から、本当にもう九十歳に の方だけが体験している沖縄戦ではなくて、そう のかなという思いでいっぱいです。残念でござい 再び戦争がないようにということで体験を語った いうふうな体験をされた、例えばひめゆりの学 これだけの島袋文子さんの思い、これは何もこ

思います。 それでは、 仮設桟橋の問題について伺いたいと

ら、直ちに作業を中止すべきだと考えますが、ま ジを与えるものでその影響は深刻であることか 間飛行場代替施設建設事業の一環としていわゆる だきたいと思います。 ず現在の作業の状況を防衛省に明らかにしていた 桟橋は、辺野古のサンゴ礁等の自然環境にダメー 仮設桟橋の設置工事を進めていますが、この仮設 現在、日本政府は、名護市辺野古における普天

れた、こういった御努力があるからこそ今日があ す。私も政治の立場から、こうした方々の思いに るんだということを忘れてはならないと存じま めなければなりません。 した苦難にも負けず、しっかりと生き抜いてこら な苦難に立ち向かい、そして戦後七十年間、そう こうした多くの沖縄の皆様方が大変 沖縄の負担軽減にも努

しかし、あわせて、政治の責任として、国の安

いでいっぱいです。 力をしていきたいと考えます。 思いでしっかり政治の責任を果たしていくべく努 〇糸数慶子君 何と申し上げていいのかという思 していかなければなりません。是非、そういった

ます。

いします。

〇政府参考人(中島明彦君) お答え申し上げま

じます。 ますことから、お答えについては差し控えたく存 これを明らかにした場合、安全に実施できないな 備が整い次第行うこととしております。ただ、そ めておるところでございますけれども、 ど事業の適正な遂行に支障が生じる可能性があり の作業の内容及び実施時期などにつきましては、 仮設桟橋の設置工事につきましては、 必要な準

〇糸数慶子君平成十六年から十七年当時、 進めてまいりたいと考えておるところでございま 古で行われましたボーリング調査においてはこう ます現地の状況を見極めながら、関係機関とも調 整しつつ、安全確保に万全を期して所要の作業を した仮設桟橋の設置は計画されていなかったと承 引き続き、気象、海象、米軍の訓練などを含み

ざいます。 す事業本体の設計に必要な地質データの取得及び 目的として設置する計画でございます。その規模 確認をするための海上ボーリング調査において、 ございますけれども、代替施設建設事業におけま 関連する船舶の係留、また資機材の積卸しなどを 〇政府参考人(中島明彦君) 長さ約三百メーター、幅約二十メーターでご 御指摘の仮設桟橋で

際は、単管足場と申します足場を設置してやる れたボーリング作業でございますけれども、この 仮設桟橋については用いなかったということでご 量の資材で行うことができましたものですから、 ボーリング作業で行っておりました。主として軽 先生御指摘の平成十六年頃に辺野古の沖で行わ

たとおり、スケジュールにつきましてはお答えを 完成時期につきましては、先ほど申し述べまし びその完成予定時期について防衛省の見解をお

で、今回仮設桟橋を設置する目的やその規模、

及

知しておりますが、その当時の計画と比較した上